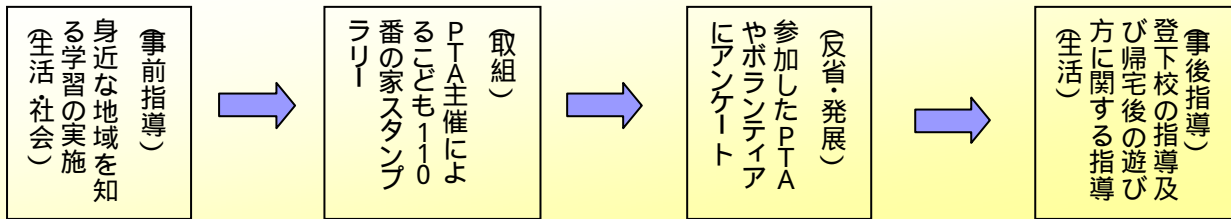


事例18「地域の「こども110番の家」を活用し、家庭と連携して 犯罪被害防止を図る取組」(小学校)

取組のポイント

- ・児童が、保護者とともに学区内にある「こども110番の家」を回ることにより、登下校時などにおける犯罪への対処を身に付けるとともに、防犯意識の高揚を図る
- ・「こども110番の家」の人達等地域の人々との協力などにより、地域を挙げての防犯意識の高揚を図る。

活動の流れの概要



教育課程上の位置付け

身近な地域を知る学習の実施(生活・社会)

登下校の指導帰宅後の遊び方に関する指導(生活・総合的な学習の時間、特別活動)

実施までの経緯

・新興住宅地と旧来の地区が融合している地域であり、子どもを守る願いから「こども110番の家」を知るという目的でPTAが積極的な活動をはじめたことがきっかけとなる。

・一方、「こども110番の家」は各都道府県警察本部においても取組を進めているところであり、PTAの動きとあわせて今回の取組を実施することとなった。

・PTAが実施主体。教職員は支援。警察署は当日の学区内パトロール。



『こども110番の家』とは

児童等(女性を含む)が声かけ、つけまわし等の被害にあった場合に、助けを求めて逃げ込むことのできる民家、商店、会社などを言う。

家や建物の入り口に『こども110番の家』のステッカー等が張ってあるのが目印。もちろん、近くの家が『こども110番の家』でなくても、危険を感じたらその家に飛び込んで、助けを求めることになる。

事前の取組

学校:教科指導等によって地域社会への関心を高める。

・生活科「ぼうけん、はっけん、町たんけん」。

・社会科「学校のまわりのようす」など。

PTA:「こども110番の家」への協力依頼、各家庭への参加の呼びかけなどをする。

警察署:当日の学区内パトロールを実施する。

効果

・地域の人々や施設等と関わる体験を通して、地域への関心を高め、理解を深める。



防犯教室(「こども110番の家」スタンプラリー)の開催

当日の状況

- ・各自、各公園に集合(実施対象は全校児童)
- ・地図を見ながら「こども110番の家」を探し当て、スタンプを集めて学校にゴールする。
- ・各場所において担当役員が交通安全の指導を実施。
- ・学校教職員は自主的に参加。
- ・当日は、PTA、学校、地域総出の取組となり、合計で約1040名を超える参加者があった。



あらかじめ「こども110番の家」の人々に活動の趣旨や内容について理解してもらい、訪れた児童に声をかけてもらうなどして、児童が身近なものとしてとらえられるようにする

実施上の工夫

- 1 「こども110番の家」スタンプラリー終了後に抽選会を開き、当日スタンプラリーで使用したスタンプを子どもたちに配布。
- 2 ゴール受付で参加賞とともに「こども110番の家」に関するクイズを出して、「こども110番の家」について知ってもらう。



【アンケートの内容】

交通ルールについて

・横断歩道に誘導担当がいたので、スムーズに横断できた

・慌てて車道を歩く子がいた

挨拶について

・親が挨拶できない場合があった

ゴール後の誘導について

・手際が良く、配慮が感じられた

スタンプラリー中について

・子どもたちが楽しそうだった

・交通安全優先なのに走っている子どもがいたので、声かけをすることができた

・わかりにくい「こども110番の家」があった

・「こども110番の家」の方とコミュニケーションがとれてよかった

・親子が「こども110番の家」を再確認できた

子どもに対する事後指導

- 1 「こども110番の家」スタンプラリー終了後、アンケート調査を行い、振り返りをさせる。
- 2 事後においても、長期休業前や帰りの会等において、機会あるごとに定期的に「こども110番の家」の機能について説明する。

事後の取組

保護者に対する事後対応

- ・参加したPTAやボランティアにアンケートを実施
- ・「こども110番の家」スタンプラリー等の取組を通じて、地域の防犯ボランティアの活動が始まっており、PTAによる緊急事態発生時の連絡体制についての検討が開始されている。



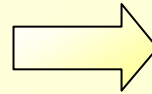
保護者の声(アンケート回答)

- ・子どもたちは毎日の通学で110番の家は知っていますが、親はあまり知らなかったので参考になった
- ・教職員や役員ボランティアの方に横断歩道に立って誘導していただいたので、横断の心配がなくスムーズに行われた。また、110番の家の方の協力も得られ、意義あるスタンプラリーになった

アンケート結果を保護者会やPTA広報誌などで紹介し、保護者の「こども110番の家」に対する理解を深め、防犯への意識を高める

子どもに対する事後の発展的指導

- ・教科指導における発展型
生活科「がっこうのまわりをあるこう」(6月上旬)
生活科「あそびにいこうよ」(6月下旬)
- ・生徒指導等における発展型
通学班による登校及び
下校班による下校の指導
- ・そのほか 帰宅後の遊び方に関する指導



本プログラムの活用により期待される成果と活用上の留意点

成 果

- ・スタンプラリーの取組を通して、地区の防犯ボランティアの活動が始まったり、PTAによる緊急事態発生時の連絡体制についての検討が促進された。
- ・子どもたちが「こども110番の家」を身近に感じる事ができたほか、地域住民と子どもがふれあう、またとない機会となった。
- ・児童、保護者及び地域の人々の防犯意識の高揚が図れた。

課 題

- ・「こども110番の家」の住民だけでなく、より多くの地域住民が防犯活動に参加して地域における犯罪被害防止に対する意識をより高揚させる必要がある。

